

人間ドック・健診センター

健康管理室

【はじめに】

2020年度は、これまでのワクチン接種管理や感染・針刺し事故後のフォロー、職員特定保健指導の強化に加え、安全衛生委員会において労働環境の改善や、職員の長時間労働の把握・フォローに努めた。また COVID-19 感染拡大防止のための就業制限職員の健康管理を行うなど、職員の健康管理に力を入れた。

【実績・結果】

1. 感染症予防対策

1) HB・四種感染症ワクチン接種管理

対象者

- 2020 年度雇入れ健診実施職員で感染症抗体価 (B 型肝炎、四種感染症) が基準値以下又は陰性者。
- 現行職員に対しては、職員健診実施職員のうち、B 型肝炎の抗体価が基準値以下又は陰性者。
- 2008 年 2 月在籍職員で 35 歳以上の職員及び、2008 年～2013 年の入職時に抗体検査未実施 (当時 35 歳以上) の職員に四種感染症抗体検査を昨年度実施。そのうち基準値以下又は陰性者 (産婦人科・小児科の医師・看護師は昨年度接種済み)。
 - ・ B 型肝炎接種対象者 60 名に 3 回接種、ブースター接種対象者 31 名に 1 回接種
 - ・ 風疹接種対象者 47 名に接種
 - ・ 麻疹接種対象者 103 名に接種
 - ・ 水痘接種対象者 9 名に接種
 - ・ ムンプス接種対象者 166 名に接種
 - ・ MR 接種対象者 68 名に接種

2) 雇入れ時 T-SPOT 検査

雇入れ健康診断時に、全入職者に対し、T-SPOT 検査を実施し、結果が陽性者・判定不可能者・判定保留者に対しては受診勧奨をして、定期的なフォローを行っている。検査の結果、2020 年度雇入れ健診受診者 212 名のうち陽性 2 名、判定保留 1 名、判定不可 0 名であった。他 209 名は陰性であった。

3) 針刺し等事故の追跡検査

院内感染対策委員会から報告を受けた対象者に対して、規定の追跡検査を実施するよう指導を行なっている。2020 年度、感染・針刺し事故報告は 27 件であった。そのうちの 5 件はフォロー対象であった。感染源の内訳は汚染血不明が 2 件、HCV が 4 件である。対象者は定期的に診察、血液検査を受けており、感染者の報告は 2021 年 4 月現在見られていない。その後の経過は記録保存をしている。

2. 職員健康診断

1) 2020 年度前期職員健診 (特定業務従事者健診)

対象者: 深夜勤・電離放射線・特定化学物質・有機溶剤取扱業務従事者 550 名

実施期間: 7 月 7 日～7 月 22 日

健診受診率 100%

(医師:100% 看護職:100%

事務職:100% コメディカル:100%)

2) 2020 年度後期職員健診

対象者: 全職員 (協会けんぽ生活習慣病予防健診受診者以外) 687 名

実施期間: 2 月 5 日～2 月 24 日

健診受診率:100%

(医師:100% 看護職:100%

事務職:100% コメディカル:100%

休職者及び産休・育休者、退職予定者を除く)

3) 2020 年度協会けんぽ生活習慣病予防健診

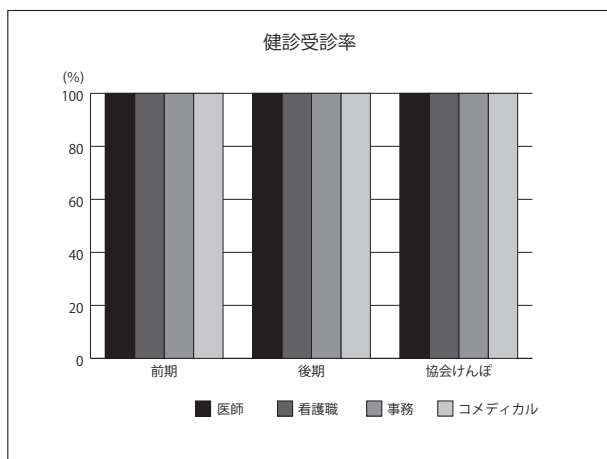
対象者: 35 歳以上で希望した職員 556 名

実施期間: 11 月 1 日～2 月 28 日

健診受診率:100%

(医師:100% 看護職:100%

事務職:100% コメディカル:100%)



3. 就業制限職員の健康管理

COVID-19 感染の疑いがあり就業制限が必要と判断された職員及び COVID-19 陽性者の濃厚接触職員に対し、就業制限中の健康管理及び復職前 PCR 検査の対応を行った。

【今後の展望】

今後もワクチン接種及び雇入れ・職員健診後の受診勧奨や追跡調査を確実に行之、職員の健康管理を継続していくとともに、職員健診および協会けんぽ生活習慣病予防健診の確実な受診についても引き続き働きかけていく。また、針刺し事故等の予防対策にも取り組み、事故数の減少を目指す。

さらに、引き続き COVID-19 蔓延防止のために施設内の環境整備を徹底し、検温や手指消毒衛生の励行に努めていく。

〔文責：木村信子〕

人間ドック・健診センター

【はじめに】

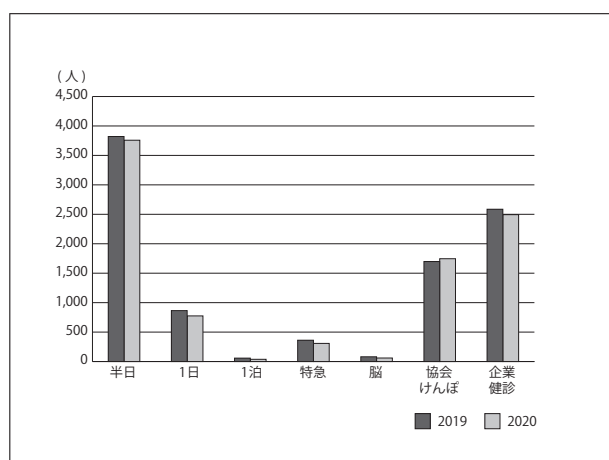
2020 年度は脳ドックコースに認知機能のスクリーニング検査（あたまの健康チェック、VSRAD）を追加したのをはじめ、新たなオプション検査（血液検査）も 4 種類追加した。また QC 活動ではオプション検査追加率を増やすための対策を実施するなど、人間ドックの質の向上に努めた。

【人員体制】

センター長	1 名
常勤医師	1 名
非常勤医師	1 名
看護師	1 名
保健師	8 名
臨床放射線技師	1 名
管理栄養士	1 名
事務	9 名

【利用実績】

2020 年度の総受診者数は 9,179 人



(職員健診は協会けんぽ健診と企業健診に含まれる)

【健診結果集計】

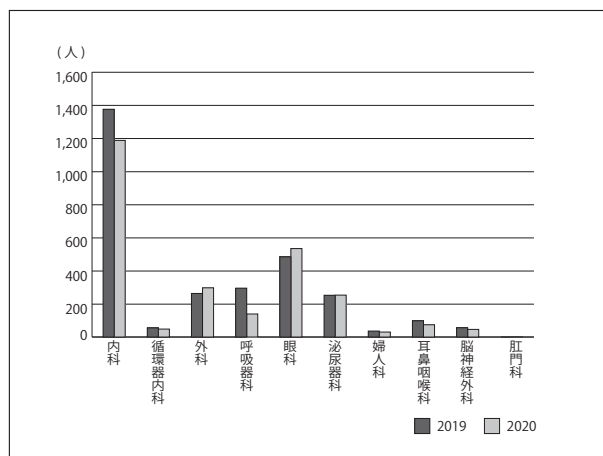
	年度	男性	女性	計
異常所見なし	2019	78	332	410
	2020	69	335	404
軽度異常あり	2019	254	474	728
	2020	259	542	801

※所見別、要経過観察、要医療、要二次検査判定については (別表 1) 参照。

【二次検査紹介数】

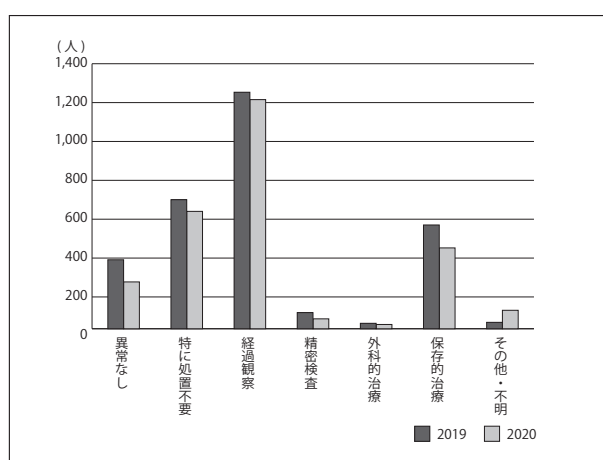
健診の結果、二次検査・精密検査が必要な方には医療機関受診の案内書を発送している。

当院の各専門科への紹介においては、円滑な外来受診ができるように心がけている。



【二次検査結果・方針】

二次検査については、毎月追跡調査を行っている。当院の各専門科、他院からの結果報告の回収は事後指導、精度管理に役立てている。



【悪性腫瘍発見数】

悪性腫瘍疑いのある受診者様に対しては、各検査科と連携をとり、速やかに医療機関を受診できるよう対応している。

年度 疾患	2019	2020
胃癌	3	1
食道癌	1	0
肺癌	5	0
腎癌	0	0
大腸癌	4	2
乳癌	2	2
子宮癌・卵巣癌	2	0
前立腺癌	1	1
甲状腺癌	2	0
計	20	6

【特定保健指導数】

2008 年度より管理栄養士・保健師による特定保健指導を行っている。

年度 疾患	2019	2020
動機付け支援	173	182
積極的支援	151	136
計	324	318

	経過観察						要医療						要精査					
	総数		男		女		総数		男		女		総数		男		女	
年 度	2019	2020	2019	2020	2019	2020	2019	2020	2019	2020	2019	2020	2019	2020	2019	2020	2019	2020
肥 満	1,576	1,568	944	928	632	640	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼 吸 器 疾 患	864	714	524	410	340	304	63	1	40	1	23	0	441	235	255	127	186	108
高 血 圧	573	574	355	352	218	222	812	795	575	572	237	223	0	0	0	0	0	0
高 中 性 脂 肪	67	64	59	59	8	5	0	0	0	0	0	0	51	43	29	17	22	26
高 尿 酸	159	139	147	128	12	11	0	0	0	0	0	0	49	37	49	37	0	0
心 電 図 異 常	443	372	236	198	207	174	60	73	47	57	13	16	103	117	73	75	30	42
食 道 疾 患	155	218	114	154	41	64	27	4	24	3	3	1	17	16	13	12	4	4
胃 疾 患	1,250	1,115	669	602	581	513	31	7	27	5	4	2	105	115	62	72	43	43
十 二 指 腸 疾 患	59	109	47	84	12	25	7	1	6	0	1	1	1	4	1	3	0	1
胆石・胆のうポリープ	1,564	1,136	1,035	799	529	337	1	5	0	5	1	0	75	70	57	50	18	20
肝 機 能 異 常	2,477	2,096	1,456	1,334	1,021	762	2	5	1	5	1	0	634	571	508	446	126	125
糖 尿 病	634	472	413	337	221	135	0	0	0	0	0	0	329	309	253	235	76	74
血 液 疾 患	858	592	439	318	419	274	42	42	4	5	38	37	445	368	151	142	294	226
便 潜 血	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0	312	228	194	131	118	97
前 立 腺 疾 患	93	82	93	82	0	0	1	5	1	5	0	0	54	43	54	43	0	0
婦 人 科	153	142	0	0	153	142	4	3	0	0	4	3	47	32	0	0	47	32
乳 房 疾 患	24	16	0	0	24	16	0	0	0	0	0	0	185	226	0	0	185	226
そ の 他 の 疾 患	1,664	1,634	922	921	742	713	8	10	5	7	3	3	1,830	1,719	1,022	936	808	783
総 計 (延べ件数)	12,613	11,043	7,453	6,706	5,160	4,337	1,058	954	730	668	328	286	4,678	4,133	2,721	2,326	1,957	1,807

(別表 1) 財団法人 日本病院会 基準

〔文責：佐伯正人〕

まつなみ訪問看護ステーション まつなみ訪問介護ステーション

「生きるを ともに つくる」

「在宅で安心して暮らせる地域住民のパートナーになる」
「サービスの質の向上を図り、地域住民や関係職種の方から選んでいただけるステーションになる」
を目標に掲げ、全ての年齢層、全ての障がいを対象者として質の高い看護・リハビリテーション・介護サービスの提供をめざして活動をしている。

【人員体制】

訪問看護ステーション

施設長	1 名	(訪問看護、訪問介護兼務)
保健師	1 名	
看護師	10 名	(訪問リハビリと兼務)
作業療法士	1 名	
理学療法士	3 名	(訪問リハビリと兼務)
言語聴覚士	2 名	
事務	1 名	

訪問介護ステーション

介護福祉士	7 名
事務	1 名

【概要】

地域のかかりつけ医やケアマネジャー、市町村の健康福祉課や介護保険課などと協力し、地域で生活してみえる方の居室に訪問してその方に必要な医療・介護サービスを、24 時間 365 日対応している。

- ・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士によるリハビリテーション
- ・保健師・看護師による医療処置・管理、健康状態の観察、療養支援、介護者支援、退院時の移行支援、入院中の外出泊支援
- ・介護士による食事介助、入浴等支援、買い物や調理支援、痰吸引、経管栄養注入支援
訪問車を運転して利用者の家から家へ 1 日中渡り歩いており、当院に帰ってくるのは基本的に自分の昼食時間と訪問が終わった夕方だけ。不在時の電話は手持ちの携帯電話に転送され、出先で対応している。

【取り組み】

1. 職員の育成を強化し、サービスの質の向上

- ①計画的に研修参加したり、勉強会を実施したりした。昨年度に引き続き、小児ケアに力を入れ、サービスの質の向上を図った。
- ②個別手順書の作成をし、質の向上を図った。
- ③利用者の状態変化に応じて適切なアセスメントを行い、同・他職種間での情報交換を密に行った。
- ④2 事業所合同で症例検討会を定期的に行い、多角的にチームで 1 人の利用者を支えていく方法を学んだ。
- ⑤マナー向上委員会を立ち上げて活動した。クレーム件数 0 を目指し、達成はできなかったものの、「クレームになる前に利用者の思いを汲み取る気付きの重要性」について話し合いの時を持てた。今後マナー委員会主導でクレーム 0 を目指す。

2. 介護保険非対象者、特に超重症児・準超重症児増加

岐阜圏域の大病院の退院調整部と顔の見える関係作りを継続している。小児利用者が 10 名ほどで推移。介護保険対象外の若い世代の利用者も増加。精神利用者も増えている。

3. 看取り利用者増加

年間 20 件以上の看取り利用者がある状態で経過。コロナ禍の影響で在宅看取りを選択する方が増えており、対応に追われた。退院調整が不十分のままで退院が多かった。機能強化型訪問看護加算 1 の算定も継続できている。

4. 地域の関係職種からの信頼度向上

地域のケアマネジャー、支援員、かかりつけ医と電話やファックス、出向く等で密な連携を図って利用者情報の共有やプラン検討を行い、サービス向上を目指した。

5. 地域貢献活動の推進

コロナ禍の為、特に活動できず。

6. スタッフのコスト意識向上と収益確保

訪問看護 1人1日5.0件訪問

訪問介護 1人1日5.0件訪問

OJT教育の充実、提供するサービスの質向上、マネージメント能力を養う事で訪問件数増加につながるよう指導してきた。

2事業所合計収益¥166,295,430

利用者の仕分けをしてリハビリのみが必要な利用者は「松波総合病院訪問リハビリテーション事業所」が訪問することになり1年経過。両事業所合わせると増収につながっている。

また、分化したことで訪問看護利用者の重症度割合が増した。看護体制強化加算の算定の達成を目指している。

訪問介護に関しては、増収している。人件費を考えると決して良くはないが、もともと訪問介護の発足理由に、「訪問看護師の訪問でなくて良くなった利用者サービスを当ステーションの介護士が担い、看護師は新たな重症者のケアに当たれるようにする。密に連携できて質の高いサービスが提供できる」があり、そのような流れで利用者獲得できているため、この方針のまま継続していきたいと思う。

7. 訪問介護雇用形態の見直し

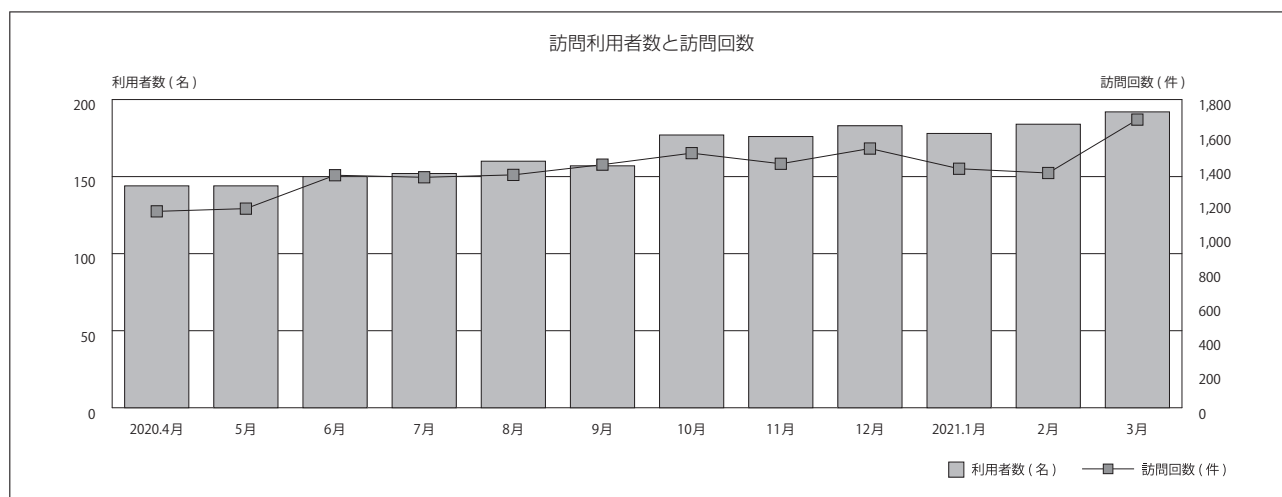
訪問単価、人件費等を考慮するとパート雇用が必要だが、就職につながることはなかった。次年度、雇用形態の再編も含めて検討していく。

〔文責：早藤麻衣〕

2020年度 まつなみ訪問看護ステーション

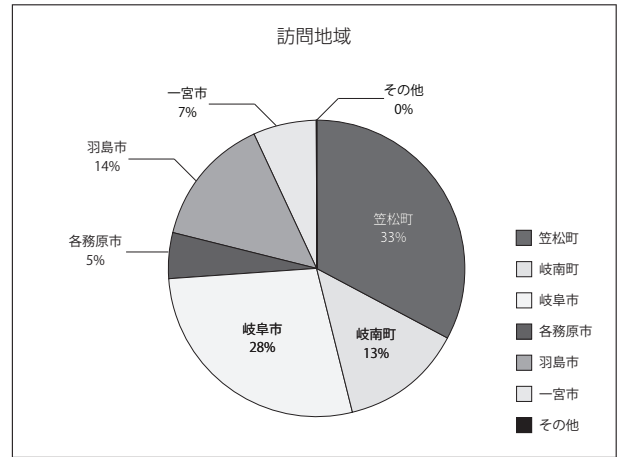
訪問利用者数と訪問回数

	2020.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2021.1月	2月	3月
利用者数(名)	144	144	150	152	160	157	177	176	183	178	184	192
訪問回数(件)	1,147	1,163	1,358	1,346	1,360	1,420	1,487	1,425	1,514	1,396	1,371	1,683



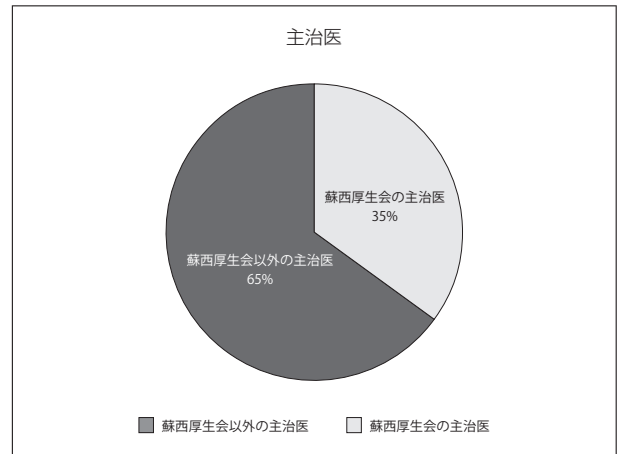
訪問地域（訪問看護）

利用地域	利用者数	割合
笠松町	95	33%
岐南町	39	13%
岐阜市	80	28%
各務原市	14	5%
羽島市	41	14%
一宮市	19	7%
その他	1	0%
合計	289	100%



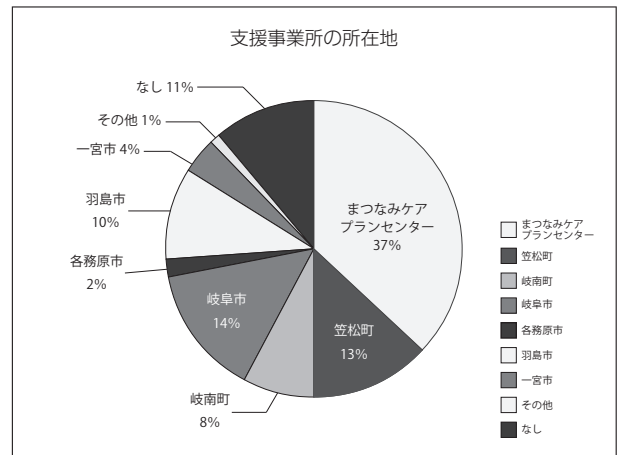
主治医（訪問看護）

主治医	利用者数	割合
蘇西厚生会の主治医	100	35%
蘇西厚生会以外の主治医	189	65%
合計	289	100%



支援事業所（訪問看護）

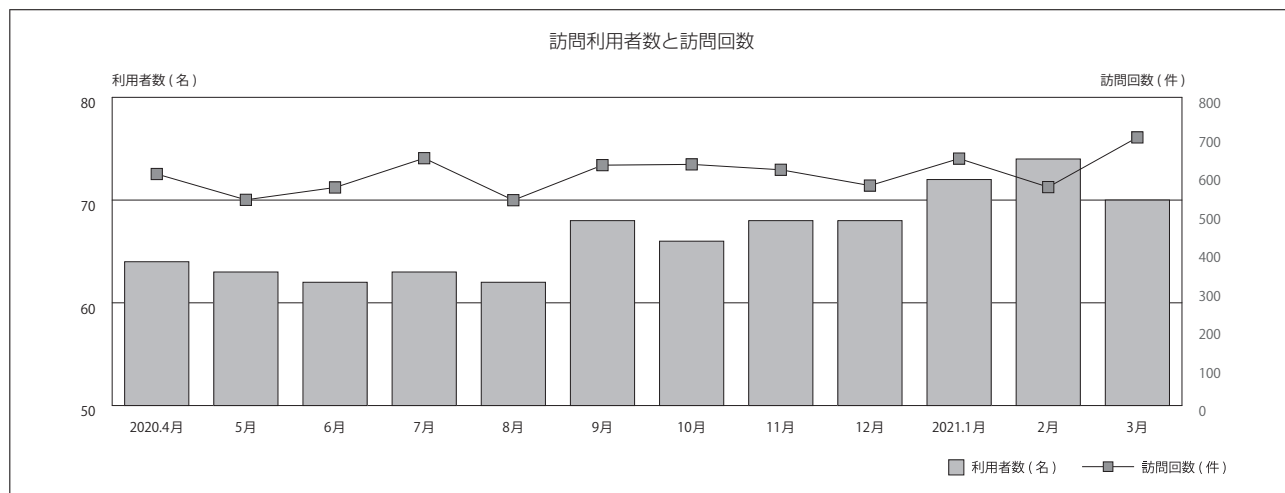
支援事業所の所在地	利用者数	割合
まつなみケアプランセンター	106	37%
笠松町	37	13%
岐南町	24	8%
岐阜市	41	14%
各務原市	6	2%
羽島市	30	10%
一宮市	12	4%
その他	2	1%
なし	31	11%
合計	289	100%



2020 年度 まつなみ訪問介護ステーション

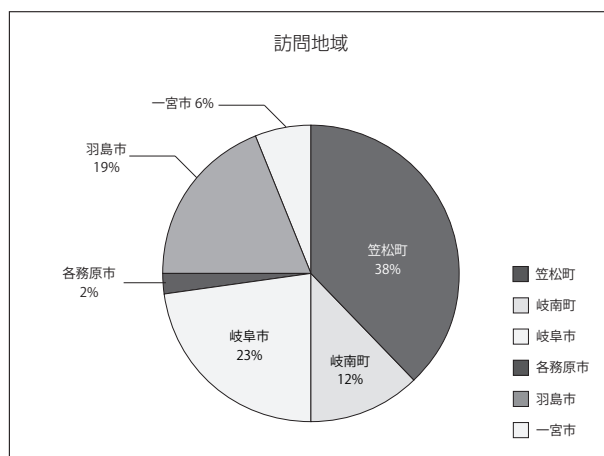
訪問利用者数と訪問回数

	2020.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2021.1月	2月	3月
利用者数(名)	64	63	62	63	62	68	66	68	68	72	74	70
訪問回数(件)	601	534	566	642	533	624	626	612	571	641	567	696



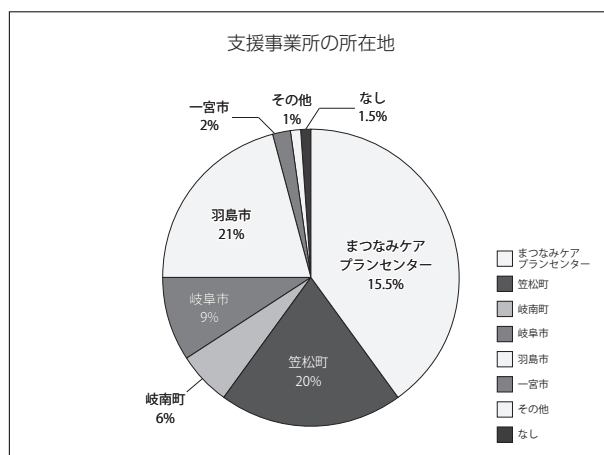
訪問地域 (訪問介護)

利用地域	利用者数	割合
笠松町	45	38%
岐南町	14	12%
岐阜市	27	23%
各務原市	2	2%
羽島市	22	19%
一宮市	7	6%
合計	117	100%



支援事業所

支援事業所の所在地	利用者数	割合
まつなみケアプランセンター	47	40%
笠松町	23	20%
岐南町	7	6%
岐阜市	11	9%
羽島市	25	21%
一宮市	2	2%
その他	1	1%
なし	1	1%
合計	117	100%



まっなみ訪問リハビリテーション

【人員体制】

管理者（医師）	1 名
医師	1 名
理学療法士	2 名
作業療法士	1 名
	（訪問看護ステーションと兼務）
言語聴覚士	2 名
	（訪問看護ステーションと兼務）
事務	1 名

【概要】

訪問リハビリテーションは、2019 年 3 月からリハビリテーションに特化した訪問リハビリテーション事業所として開設（看護師との連携が必要な場合は、訪問看護ステーションから理学療法士や作業療法士、言語聴覚士が訪問）。

訪問リハビリは、住み慣れた地域で安心して日常生活を送れるように、利用者の身体機能の回復や日常生活の自立を目指すとともに、生きがいや役割を持って家庭内や社会に参加できるように支援していくものである。また、漫然とサービスを提供するのではなく、リハビリテーション会議を含めリハビリテーションマネジメントを実践していく中で、リハビリテーションの質の向上に努めている。

訪問地域の割合は、岐阜市が 29.9%、羽島市 23.0%、笠松町 20.7%、岐南町 17.2%、一宮市 5.7%、各務原市 3.4% になっている。

【取り組み】

1. リハビリテーションマネジメントの実践

昨年度に引き続き、リハビリテーションマネジメントを実践し、調査 (S)、計画 (P)、実行 (D)、評価 (C)、改善 (A) のサイクルを構築し、利用者の心身機能、活動及び参加についてバランスよくアプローチし、職員の育成やサービスの質の向上に努めた。

2. 感染対策の強化

COVID-19 の感染対策について、訪問看護ステーション、訪問介護ステーションと共同して取り組み、研修会の開催や対応手順の改定を繰り返し、職員の意識向上、感染対策の強化を図った。

3. IT の推進（電子カルテ、介護保険請求ソフトの導入、LIFE への参加準備）

今年度、電子カルテと介護保険請求ソフトを導入することができた。

また、2021 年度の介護報酬改定で、LIFE（科学的介護情報システム）にデーター提出できるよう準備を行った。

4. 実績

今年度の訪問実績は介護保険 7,112 単位、医療保険 652 単位であり、計画（介護保険 7,350 単位、医療保険 735 単位）を達成することができなかった。要因としては、新型コロナウイルスの影響で利用者の自粛が見られたことや、新規利用者が伸び悩み、短期集中リハビリテーション加算の算定が平均 2.8 人 / 月と目標の 3 人を下回ったことなどが挙げられる。

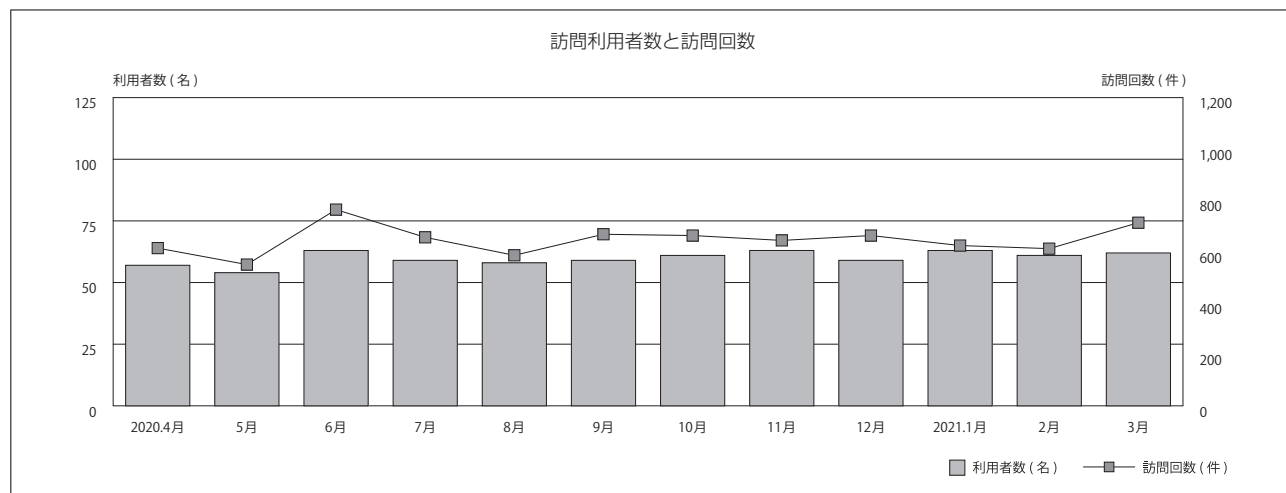
しかし、今年度は社会参加支援加算を算定することができた。また、今後の新規利用者確保に向け、訪問利用希望者の情報を共有し、介護保険申請を促し、介護保険の利用者の割合を増やすよう努めた。

〔文責: 吉村ゆかり〕

2020 年度 松波総合病院 訪問リハビリテーション事業所

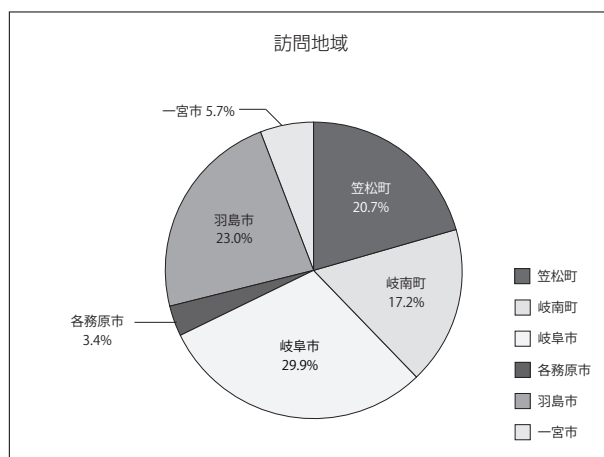
訪問利用者数と訪問回数

	2020.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2021.1月	2月	3月
利用者数(名)	57	54	63	59	58	59	61	63	59	63	61	62
訪問回数(件)	614	550	764	656	586	668	663	644	663	624	612	713



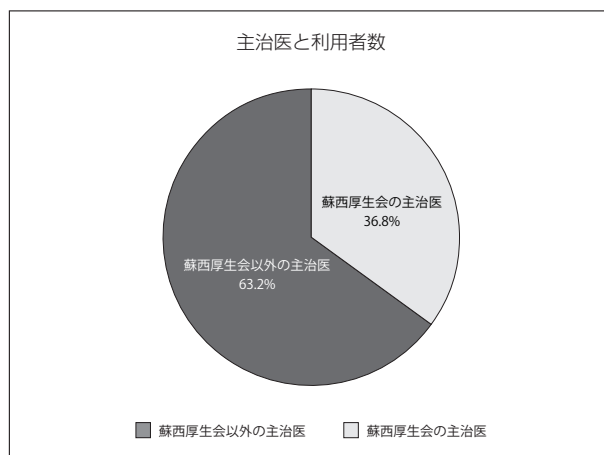
訪問地域（訪問リハビリ）

利用地域	利用者数	割合
笠松町	18	20.7%
岐南町	15	17.2%
岐阜市	26	29.9%
各務原市	3	3.4%
羽島市	20	23.0%
一宮市	5	5.7%
合計	87	100%



主治医と利用者（訪問リハビリ）

主治医	利用者数	割合
蘇西厚生会の主治医	32	36.8%
蘇西厚生会以外の主治医	55	63.2%
合計	87	100%



まっなみケアプランセンター

【人員体制】

部長	1 名
管理者 (主任介護支援専門員)	1 名
部員 (主任介護支援専門員)	4 名
(介護支援専門員)	3 名

【居宅介護支援事業所の概要】

所属する介護支援専門員 (ケアマネジャー) が、介護保険法の趣旨に従い、介護サービス計画書 (利用者、利用者家族の希望される在宅での療養生活が可能となるよう支援する) の作成を主な業務としている。

【取り組み・実績】

当事業所は、主に 6 市町 (笠松町・岐南町・岐阜市・羽島市・各務原市・一宮市) の行政と関わり (表 1)、介護保険サービスはもとより地域の社会資源を有効に活用して利用者や家族を支援している。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症対策を講じる 1 年となった。感染防止の為 4、5 月は出勤者を交代制にし、ICT 等を活用して事業所内の連携を取りながらリモートワークを実施した。また地域の感染者の増加があった際には、必要なサービスを確保する為の代替調整や、感染防止の為業務を見直し、Web 会議や電話によるモニタリングに切り替える等の対応に追われたが、前年度に比べ利用者数は増加した。(表 2)

当事業所への紹介は当法人の病院や老健、地域包括支援センター、家族からの割合が多い。(表 3)

近年は主治医や看護師、入退院センター等の働きかけにより、急性期病棟から末期がん患者等が直接退院して、住み慣れた自宅で看取る支援や医療依存度の高い利用者を在宅医や訪問看護と連携を取りながら在宅療養へ移行し継続的に支援する状況が増加している。当事業所は病院併設による居宅介護支援事業所として迅速に対応することでその役割を担っている。

【今後の取り組み】

2021 年 4 月の介護保険報酬改定を踏まえ、取り組むべき項目は以下のとおりである。

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大や大規模災害が発生すると予想される中でも、日頃からの備えと業務継続に向けた取組の推進・感染症対策が義務付けられることから、災害時に地域と連携した対応をする為の計画、委員会の開催、研修の実施・訓練を病院と連携を取りながら随時実施していく (3 年の経過措置)。

- ・団塊の世代全てが 75 歳以上となる 2025 年に向け、ICT 等を活用した情報提供や事務の効率化を行う。
- ・各種研修会等への参加、事例検討会を実施し、質の高いケアマネジメントを推進する。

今後も当病院はもとより在宅医、歯科医師、薬剤師、看護師、介護サービス関係者等との多職種連携を行い、病院～在宅の切れ目のないサービス提供支援を行っていききたい。

〔文責：加藤祥世・堀 昭江〕

〈表 1〉利用者保険者別割合

保険者	利用者数	割合 (%)
笠松町	1,021	39%
岐南町	393	15%
岐阜市	729	28%
各務原市	52	2%
羽島市	342	13%
一宮市	84	3%
その他	26	1%
合計	2,647	100%

〈表 3〉紹介別割合

	紹介者数	割合 (%)
当病院	70	46%
他病院	4	3%
松波老健	12	8%
他施設	1	1%
地域包括	37	25%
家族	21	14%
その他	6	4%
合計	151	100%

〈表 2〉実利用者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018年	179	184	183	180	196	196	206	197	203	198	197	206	2,325
2019年	206	206	212	214	207	207	213	226	226	235	229	228	2,609
2020年	232	237	242	244	243	245	246	250	255	248	253	251	2,946

まつなみリサーチパーク (MRP)

【人員体制】

- 所長 1 名
 ・研究部 常勤研究員 2 名
 非常勤研究員 1 名
 ・事務部 3 名

【概要】

まつなみリサーチパークでは、医療の質を維持しつつ、医療費の削減・適正化をめざし、日本の医療費を圧迫している要因に対して、具体的な解消案(新しいアイデアによる時代に即した医療)を提案しております。今年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策を中心に活動いたしました。医療機関に求められている課題、「COVID-19の陽性患者から医療関係者や他の一般患者へ感染する機会を減らす対策を促進し、強化する。」を解決する為に、様々な対策を提案いたしました。COVID-19以外の取り組みについても前年度より継続して行いました。

今年度も、多くの特許・実用新案・商標等を出願し、特許1件・実用新案2件・商標3件を取得しました。

【取り組み】

①「新型コロナウイルス感染症」対策の提案

COVID-19 陽性患者から医療関係者へ感染する機会を減らす対策として、全国初の今までにないドライブスルー方式で行う安心・安全な検体採取方法を提案し、岐阜県羽島郡医師会「岐阜地域 地域外来・検査センター(PCR センター)」にて実施いたしました。検査に携わる医療関係者の感染機会を減らし、安心して安全に行える安価なビニールカーテン(Gifu CURTAIN)を用いたドライブスルー方式を考案し、運用しています。これ以外に、今までにない「マスク」「防護服」「人由来飛沫の検知器」等の開発(特許6件出願中、実用新案登録済2件、商標出願中2件)も手掛けております。

②「インナーシャントソックによる消化管吸収抑制法」研究

内臓脂肪型肥満に起因する生活習慣病患者・予備群が増加している問題を解決するために考案した、より安全・簡便な体重減量法である「食塊が小腸粘膜に接触することを抑制する医療器具「ソック」(両端が開放された長い袋(先が開放された靴下(ソックス)のようなもの)を小腸内に留置する「新しい消化吸収抑制法」を臨床応用するため、今年度は、岐阜大学と一緒に実用化に向けて研究を行いました。

③「遠隔医療機器を使用した在宅患者管理システムの構築」研究

在宅医療が抱える問題を解決するために、安心して安全に在宅医療が行えることを目的とし、ナースコールのように緊急時に医療従事者を呼ぶことが可能となる「マイドクターコール®」を内蔵したウェアラブルな生体情報測定・発信装置の開発を企業と共に進めております。

④「健康情報(健診・食・ストレス他のデータ)付き経時的血清保存」研究

疾病が重症化し、手遅れになる問題を解決するために、個々の疾病の発症前に、より高い精度で発症の予測・正確な診断を行い、早期に治療することで、重篤な疾病の発症を未然に防ぐ「先制医療」の確立をめざし、健診者の協力によって得られた健康情報(健診・食・薬・ストレス等のデータ)と血清サンプルを経時的に保管しデータベース化することを一般社団法人健康科学リソースセンター(RECHS)と共同で行っております。2021年3月31日迄に3,773名(延数:10,987名)の方にご協力いただいております。

【2020 年度実績】

< 国内特許取得 >

「安全運転支援システム」

特許第 6850764 号

2021 年 3 月 10 日

< 実用新案取得 >

「フィルター付きマスク」

登録第 3227223 号

2020 年 7 月 22 日

「保護具」

登録第 3227227 号

2020 年 7 月 22 日

< 商標取得 >

「貯カーボ」

登録第 6325562 号

2020 年 12 月 7 日

「貯カロリー」

登録第 6291287 号

2020 年 9 月 11 日

「貯カーボン」

登録第 6288528 号

2020 年 9 月 4 日

* その他にも国内特許 13 件、国際特許 3 件、
商標 2 件出願中です。

〔文責：吉川智美〕